

# 「愛の生き方」

～愛で奏でる～

Iヨハネ4:7～21

イタリアにクレモナというバイオリンの町として知られる場所があります。私が一生の内に一度は行きたい町です。バイオリン奏者オーギュスタン・デュメイの奏でる音はとても綺麗で、彼が使用するバイオリンであり世界中のバイオリニストが求めるスタリディバリウスはバイオリン職人アントーニオ・ストラディバリによって何百年も前に作られました。音色、作品としても最高と言われ現在では金額がつけられないほど価値あるものです。そんな昔に作られたバイオリンがなぜ今も残されているのでしょうか。

もちろん楽器は作られる時が一番大事ですが残すためには管理するのがとても重要になってきます。戦前戦後のその時代に在っては多くの楽器は批判されるものであり、たくさん焼かれ処分され残るのは難しいものでした。ですがその中で職人ストラディバリは我が子に生前多くの事を伝え、そして多くのバイオリンを作ったのです。彼が活躍した町クレモナにはスタリディバリウスを奏でるためのホールがあるバイオリン博物館があるのですが、そこに毎朝5時から1時間だけ仕事をする80代の男性がいます。彼の仕事は素晴らしい音を奏でるために生き続けるその楽器を演奏して管理し手入れをするというものです。どんな楽器も演奏する事がとても大事で弾かないでいるとすぐに曲がりカビが出て使えなくなるのです。彼は昔から捨てられていた楽器を集めては修理をしていました。彼がごみの中から修理したものの中には後に3億の価値がつけられたものもあったほどです。彼がしている事は決して特別な事ではなく、ただ価値を見出そうとしただけなのです。

## ■ ①あなたは最高に愛された宝！！

神様は皆さん一人一人を創造しました。まさに値段はつけられません。そして同時に御言葉が与えられました。

(マタイ 22:35～40) そして、彼らのうちのひとりの律法の専門家が、イエスをためそうとして、尋ねた。「先生。律法の中で、たいせつな戒めはどれですか。」そこで、イエスは彼に言われた。『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』これがたいせつな第一の戒めです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」

自分だけではなく隣人を愛するようにと聖書は言っています。ですが私たちは神様の命令に反発してしまいます。愛せというのに愛せない。「あの人だけは許せない」という葛藤と闘い悩んでしまい破壊という感情がうまれます。私たちの中で不要だと思ってしまうものが実はあなたにとって必要であなた自信を変えられるものなのかもしれません。もしあなたという楽器が壊れていて本当の音色が奏でられていないと

したら、それを治すことができたらどんなに素晴らしい音色が奏でられるでしょうか。あなたは素晴らしい神の作品であって良い行いをするために良い行いをも予め備えられているのです。まさに最高のバイオリン以上の価値ある神の作品なのです。

## ■ ②愛は感情ではなく動詞である！！ ～あなたはどうか奏でる？ 愛は感動を三方に～

ある農夫が記者から質問を受けました、「あなたはクリスチャンですか？」すると彼は1枚の紙に自分の家族や周りの人々の名前を書きながら言いました。「私がクリスチャンかどうかは彼らに聞いてください。」あなたがクリスチャンかどうかはあなたと一緒にいる人がわかります。私たちは愛する事でイエス・キリストが現れる事を知っています。愛されたのだから愛するのです。愛は伝わるものだと思いますが愛しても相手に伝わらない事があります。愛は相手を本来の姿に戻そうとするので反発されることがあるのです。ですから愛は流し続け、届くまで与え続けるのです。神様は本当に愛を流そうとした人には答えてくれます。そしてそれはあなただけでなく それを見ている人にまで影響を与えるのです。

私たちが神の目線になって見る時とは相手を奏でることができる楽器にする思いでありあなた自信が奏でる楽器になることなのです。あなたは今、どんな音色を奏でていますか？人前ではメロディを流し、家に帰ると不協和音を奏でていないでしょうか？自分を調律できているでしょうか。

## ■ ③愛と秩序！！ ～人が最後に求めるものは！！ 最善に生きる！！～

「あなたが明日死ぬとしたら、あなたは今日これから何をしますか？」  
あなたが建てた家を見に行きますか？あなたの会社を見に行きますか？あなたの暮らしを眺めたいですか？あなたは何をしたいですか？  
あなたと一緒に生きた人といいたいと思いませんか？人間の秩序というものは愛するという事です。法によって秩序があるのではなく愛があつて法があるのです。そしてその秩序を守るのはその人のためなのです。私たちが重んじなければならない愛と秩序というのとは一つ その人との関係であり愛することなのです。

(要約者:西崎 真由美)

(2月25日)